



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2019 January to March vol. 201



新春特集展示

亥づくし ― 干支を愛でる ―

特集展示

京の冬景色

特集展示

美麗を極める中国陶磁

日中平和友好条約締結40周年記念 特別企画

中国近代絵画の巨匠 齊白石

特集展示

初公開! 天皇の即位図

特集展示

雛まつりと人形



京都国立博物館

だより

二〇一九年

一・二・三月号

亥づくし

「十二支を愛でる」

平成30年12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【平成知新館 1F-5】

新春特集展示「十二支を愛でる」。二〇一九年は亥年といふことで「亥づくし」、猪にまつわる名品を展示いたします。

十二支に動物を配するのは何も日本だけではありません。中国・韓国・タイ・ベトナム・ロシアでも行われています。ただし、それらの国では亥年を表す動物は豚であり、猪とするのは、実は日本だけです。

イノシシを家畜化したものがブタですが、現代中国語では「猪」はブタを意味し、イノシシは「野猪」と書かれます。例えば狩野山雪筆「猪頭像」、好んで猪頭を食べることから「猪頭和上」と言われた北宋時代の奇僧、志豪を描いた作品です。ここで言う「猪頭」も豚の頭を意味すると考えられますが、山雪は、志豪の常識に捕らわれない心を、手に猪の首を持つという衝撃的な姿で表現しています。

また「新羅十二支像護石拓本のうち亥像」。新羅による三国統一の功労者、金庾信(五九五～六七三)將軍の墓を囲む護石には、獸頭人身の十二支像のレリーフがみられます。現在の韓国も中国同様、十二支の「亥」を豚としますが、そこには牙のある猪が刻まれており、十二支の亥を猪とする例が新羅にもあったことを伝える貴重な作品となっています。

他にも、同じく十二支を擬人化した重要文化財「十二類絵巻」、精緻美麗に刀の柄を飾った「猪図目貫」、細線を重ね猪・猿・鹿の毛の質感を描き分ける森狙仙筆「雪中三獸図襖」、これのどこに猪が?という「流水山吹詩絵大角赤手箱」等々、さまざまな猪にまつわる名品が皆様をお待ちしております。海外からご来館のお客様は「これは何年の展示?」と首をかしげられるかもしれません、日本独自のお正月として「亥づくし」を楽しんでいただけます。

(上杉智英)



十二支像護石拓本のうち
亥像(部分) 京都国立博物館



猪頭像(部分) 狩野山雪筆



雪中三獸図襖 森狙仙筆 京都・廣誠院

京の冬景色

平成30年12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【平成知新館 2F-5】

四季に恵まれた日本の自然は、その季節ごとにさまざまな表情を見せてくれます。桜、新緑、紅葉など、季節を彩る豊かな色彩が、見慣れたはずの景色に新鮮な趣を添えるさまはまことに目に楽しいものです。特に、春と秋は気候の穏やかさも手伝って観光のハイシーズン。ここ数年は年間五〇〇万人を超える観光客が訪れる京都でも、多くの人が出で賑わうのは圧倒的に春と秋です。

底冷えのする冬の京都には、しかしこの季節ならではの景色があります。特に、市内でも北部や山沿いでは雪が積もりやすく、雪化粧という言葉そのままに、真白な雪は美しい景色をさらにも美しく磨き上げてくれるのです。そんな魅力的な京都の冬景色が描かれた作品をご覧いただくという特集展示です。

雪が降り積もる二尊院の境内を静謐に描いた、国宝「法然上人絵伝」巻四十二、松村景文ら円山四条派の画家たちの合作である「都名所図巻」のほか、嵐山や宇治の冬景色を描いた作品も展示を予定しています。

(福士雄也)



院雪景図屏風(部分) 塩川文麟筆 京都国立博物館



国宝 法然上人絵伝 巻四十二(部分) 京都・知恩院

しんでいただけますと幸いです。
(上杉智英)



新羅十二支像護石拓本のうち
女像 京都国立博物館

特集展示

美麗を極める中国陶磁

平成30年12月18日(火)〜平成31年2月3日(日)
【平成知新館 1F-2・3】

京都国立博物館では、平成二十四年に、清朝陶磁を中心とした中国美術の蒐集家である松井宏次氏より、陶磁五十九件(ガラス製品を含む)、考古十三件、彫刻二件の計七十四件を一括で寄贈いただきました。今回はこの受贈を記念して特集展示を開催し、寄贈作品を一堂に紹介します。

寄贈作品の中心をなすのは、中国陶磁です。なかでも清朝陶磁が十五点ほどあり、清朝ガラスを含めると全体の四分の一ほどが清時代に作られたものとなっています。



粉彩松鹿図瓶 大清乾隆年製銘
京都国立博物館



黄玻璃細頸瓶 乾隆年製銘
京都国立博物館



黒釉鏤花花卉文玉壺春瓶
京都国立博物館



白地紅被玻璃花卉文小壺 大清乾隆年製銘
京都国立博物館



三彩牡丹文豆形枕 京都国立博物館



豆彩花唐草文盤 大清雍正年製銘
京都国立博物館



三彩婦女俑 京都国立博物館

特筆すべき作品として「粉彩松鹿図瓶」が挙げられます。粉彩という、十八世紀はじめにヨーロッパで流行していた無線七宝の技を応用した技法を用いて作られたもので、山間の松林に群れ集う鹿の様子が、遠近法を用いて風景画のごとく描かれています。川を渡る鹿と、鹿の動きによって揺らめく水面の様子まで、豊かな色彩と絵具の濃淡、繊細な筆致で生き生きとあらわされており、見るものを虜にします。

松井コレクションには、清朝陶磁や清朝ガラス以外にも、唐三彩の「三彩婦女俑」や「三彩合子」、金時代から元時代にかけての「三彩牡丹文豆形枕」や「黒釉鏤花花卉文玉壺春瓶」、そして、明時代の「釉裏紅三魚文高足杯」などをはじめとする、清時代以外の時期の中国陶磁も蒐集されています。ここでは紹介しきれませんが、漢時代、唐時代から宋、明時代までの碗、皿、瓶や壺、枕や俑にいたるまで多岐に渡っています。

この特集展示では、松井コレクションの全容をご紹介しますとともに、清朝陶磁をはじめとする中国陶磁の形状の豊かさや色彩の美しさを感じてもらいたと考えています。また、中国陶磁だけでなく、あわせて寄贈いただいた青銅器や金属工芸、彫刻作品などもご覧いただき、中国美術における造形美について触れていただく機会になれば幸いです。

(降矢哲男)



平等院雪景図屏風(部分) 塩川



日中平和友好条約締結40周年記念 特別企画

中国近代絵画の巨匠 齊白石

平成31年1月30日(水)～3月17日(日) 平成知新館 2F-1～4

※会期中展示替えを行います。 前期：1月30日(水)～2月24日(日) 後期：2月26日(火)～3月17日(日)



平成三十年(二〇一八)は、昭和五十三年(一九七八)に日本と中国の間に平和友好条約が締結されてから四十周年の節目の年にあたります。条約締結より少し前、昭和四十七年(一九七二)の日中国交正常化の折には、東京の上野動物園にパンダのカンカンとランランがやってきました。今回は、東京と京都の国立博物館にて二十世紀の中国水墨画の巨匠である齊白石(一八六四～一九五七)の名品が展示されることになりました。

齊白石は、近代の中国で金石書画に通じた吳昌碩(一八四四～一九二七)と並び称され、晩年には「人民芸術家」の称号も授けられた、現代の中国では誰もが知っている大画家です。その一方で、素朴美を追求した孤高の画家でもありました。

白石の絵画には、中国の文人画の伝統を消化したうえで、若き頃、故郷の湖南省湘潭での大工仕事で培った「巧まざる匠」としての美学が貫かれています。華やかな色彩と簡潔で力強い墨線の画を得意とし、素朴な描写のなかに、かわいらしさとユーモアがあふれているのが特徴です。近代日本の美術界でいえば、壮大な日本画を描いて画壇を牽引した横山大観(一八六八～一九五八)の知名度に、徹底した観察眼で小さな生き物を描いた洋画家の熊谷守一(一八八〇～一九七七)のような孤高さを兼ね備えた画家であるといえるでしょう。

今回、中国からやってくるのは齊白石が初代名誉院長をつとめた北京画院の所蔵品です。北京画院は一九五七年に成立した、同国で最も古く、規模の大きな美術アカデミーの一つで、白石の名品を数多く所蔵することでも知られています。京都国立博物館(京博)とも研究職員の相互交流のご縁もあって、東京展



穀穂蝗虫図 齊白石筆 北京画院 (1月30日～2月24日展示)



桃花源図 齊白石筆 北京画院 (通期展示)



白石筆 北京画院 (17日展示)

北京画院 (展示)

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1

【紺紙経―輝く仏の言葉―】

平成31年1月2日(水)～2月3日(日)

【日本と東洋のやきもの】

2月19日(火)～3月10日(日)

*2月5日～17日、3月12日～17日は閉室

3F-2 考古

【中国と日本の銅鏡】

平成31年1月2日(水)～3月10日(日)

*3月12日～17日は閉室

2F-1

【神々の伝説―北野・巖島―】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【特別企画】

中国近代絵画の巨匠 齊白石

1月30日(水)～3月17日(日)

2F-2

【十二屏風の世界】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【特別企画】

中国近代絵画の巨匠 齊白石

1月30日(水)～3月17日(日)

2F-3

【禅宗の人物画】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【特別企画】

中国近代絵画の巨匠 齊白石

1月30日(水)～3月17日(日)

2F-4

【渡辺始興の絵画】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

【特別企画】

中国近代絵画の巨匠 齊白石

につづいて京博での展示が実現しました。

京博では、中国のお正月にあたる春節（平成三十一年（二〇一九）は二月五日）をはさみ、前期と後期にあわせて約百二十点の絵画、書跡、印章などを出品いたします。新春にふさわしい梅の花から、独自の余白の美を追求した山水図まで、画題ごとにくつかの章にわけて白石作品の魅力をお伝えします。さらに、名品ギャラリー（平常展示）では、須磨コレクションの齊白石作品もあわせて展示いたします。須磨コレクションとは、戦前の外交官で白石と親交を深めた須磨弥吉郎（一八九二〜一九七〇）が収集した中国近代絵画の一大コレクションです。日中両国にある中国近代絵画の巨匠・齊白石作品の競演となる、この機会をぜひお見逃しなく。

（呉孟晋）



松鷹図 齊白石筆 北京画院（通期展示）



葡萄松鼠図 齊白石筆 北京画院
（1月30日～2月24日展示）



工虫画冊（第一図：白花と風蝶） 齊白石筆
北京画院（1月30日～2月24日展示）



老当益壯圖 齊白石筆 北京画院
（2月26日～3月17日展示）



篆書 四言聯 齊白石
（2月26日～3月17日展示）

1月30日（水）～3月17日（日）

2F-5

【特集展示】京の冬景色

12月18日（火）～平成31年1月27日（日）

【須磨コレクションにみる

齊白石の名品】

1月30日（水）～3月17日（日）

1F-1 彫刻

【日本の彫刻／中国の仏像】

12月18日（火）～平成31年3月17日（日）

1F-2 特別展示室

【特集展示】美麗を極める中国陶磁

12月18日（火）～平成31年2月3日（日）

【特集展示】雛まつりと人形

2月13日（水）～3月17日（日）

1F-3

【特集展示】美麗を極める中国陶磁

12月18日（火）～平成31年2月3日（日）

【豊臣秀吉と後陽成天皇】

2月5日（火）～3月10日（日）

1F-4

【染めと織りの文様―段・縞・格子―】

12月18日（火）～平成31年1月27日（日）

【特集展示】初公開！天皇の即位図

1月30日（水）～3月10日（日）

1F-5

【特集展示】亥づくし―干支を愛でる―】

12月18日（火）～平成31年1月27日（日）

【刀を飾る】

1月30日（水）～3月10日（日）

1F-6 漆工

【うるしの酒器】

12月18日（火）～平成31年1月27日（日）

【江戸時代の詩絵 動物編】

1月30日（水）～3月10日（日）



靈元天皇即位・後西天皇讓位図屏風（右隻） 狩野永納筆

特集展示

初公開！ 天皇の即位図

平成31年1月30日(水)～3月10日(日)

〔平成知新館 1F-4〕

寛文三年（一六六三）一月二十六日、後西天皇が讓位し、後水尾天皇の第十九皇子・識仁親王（きじんしんのおう）が受禪、三か月後の四月二十七日に靈元天皇として即位しました。識仁親王は、異母兄にあたる後光明天皇の養嗣子に入っていた儲君でしたが、天皇が二十二歳の若さで崩御した時にはまだ一歳であったため、親王が成長するまでの繋ぎとして即位した後西天皇が政務を執っていたのです。親王が寛文二年十二月に元服すると、翌年に後西天皇は讓位、十歳での新帝踐祚となりました。

近年、この讓位と即位の儀式を描いた珍しい屏風絵が発見されました。その屏風は、狩野山楽を祖とする京狩野第三代の狩野永納（一六三一～一七九七）の筆になるもので、右隻に靈元天皇の即位式、左隻に後西天皇の讓位式の様子が描かれています。人物や建物には多くの貼札が付されており、儀式がどのように行われ、どのような人々が参列したのかを視覚的に知ることができる、高い資料的価値を有する作品です。本特集展示では、この注目すべき作品を初公開いたします。

実は、東京大学史料編纂所にはこの屏風を原本とする模本が所蔵されています。公家の正親町家伝来という点とともに注目されるのは、この模本に屏風と九条家との間に何らかの関わりがあったらしいことをうかがわせる記載がある点です。永納も含め、代々の京狩野画家は九条家と深い関係にあったことが知られており、屏風制作への九条家の関与も充分にあり得ることで、現時点では、九条家が本屏風の発注者であると断定することはできませんが、少なくとも、儀式の詳細を知る公家の情報提供があったことは確実で、どのような意図でこうした記録的な屏風が制作されたのかなど、今後この屏風の研究を進めていくうえで重要な情報であることは間違いありません。

折しも、平成三十一年四月三十日の今生天皇讓位、五月一日の皇太子即位を間近に控えた時期。江戸時代の同主題を描いたこの屏風を初公開するとともに、関連する資料をあわせ

特集展示

雛まつりと人形

平成31年2月13日(水)～3月17日(日)

〔平成知新館 1F-2〕



御殿飾り雛 天保14年（1843）頃

いにしえの上巳（じょうし）の節供に起源をもつ雛まつりは、本来は三月のはじめに行われる禊（みそぎ）の行事でした。この行事の中で用いられ、日常生活の中で人間につく穢れを引き受け、水に流すなどして廃棄された人形（ひとがた）が、人形遊びで用いる人形と結びつき、江戸時代には座敷に飾りつける雛人形や雛段へと発展しました。

当館恒例の特集展示「雛まつりと人形」では、江戸時代に流行した各種の雛人形を揃え、その変遷をたどります。中でも展示室中央を飾る立派な御殿（みどの）つきの雛段飾りは、大坂や京都を中心とする西日本で流行したもので、当館の雛まつり展の顔ともいえるべき作品です。本年は、いずれも京都の旧家に伝来し、天保十四年と天保十五年と、たいへん近接した時期に製作された二点を展示します。現代ではほとんど見られない御殿飾り雛から、かつての上方の雛まつりの情景がよみがえることでしょう。

あわせて、嵯峨人形・御所人形・賀茂人形と、京都の地名を冠した

各種の京人形も登場します。本年は特に、近年受贈し



折しも、平成三十一年四月三十日の今生(天皇)皇讓位、五月一日の皇太子即位を間近に控えた時期。江戸時代の同主題を描いたこの屏風を初公開するとともに、関連する資料をあわせて展示し、当時における天皇の讓位と即位に関わる儀式について考えます。

(福士雄也)

よみもの

主役の色

京都国立博物館主任研究員 古谷 毅

昨夏の第八五回夏期講座では、日本古代の世界観の一端を紹介させて頂いた。七世紀末の古代国家成立期に古代中国の宇宙観があったことは、奈良県キトラ古墳・高松塚古墳壁画の天文図によく表れています。近年では、大宝律令発布の年の元日朝賀(七〇一年)に登場する日月・四神像などを描いた宝幢の遺構が、平城京(七一〇年)・恭仁京(七四〇年)・長岡京(七八四年)に続いて、七世紀に遡る藤原京(六九四年)でも発掘されました。これらは中世・近世の絵図にも描かれ、近代の即位式でも使用されましたので、今年の御大礼でも拝見できそうです。

このような宇宙観は北極星(太極)と北斗七星(輔星)を中心に、天の黄道上の二八星座(星宿)と四方位を象徴する靈獸(朱雀・玄武・青龍・白虎)や陰陽(日輪・月輪)で表現されています。それぞれは鮮やかな赤・黒・青・白・金・銀のテーマカラーで描かれていました。中心の鳥形幢(八咫鳥?)はいかにも日本的ですが、奈良薬師寺の薬師如来台座の四神像や北斗七星が象徴で描かれた大阪四天王寺・奈良正倉院に伝来した七星剣の図像も、本来の主役が北極星であることは云うまでもありません。

さて、北極星にもテーマカラーがあります。そもそも古代中国では北極星が位置する天空を紫微垣と呼び、宮城をこれになぞらえた明・清代の紫禁城は有名です。古代日本でも内裏中心の建物は太極殿で、七世紀後半に成立した天皇号起源説の一つが北極星を神格化した天皇大帝であることはご存知の方も多いかと思います。平安時代には内裏の中心建物は紫宸殿と呼ばれ、北極星と紫色の関係をよく物語っています。仏教にも影響し、僧職の最高位は紫色です。江戸時代の朝暮関係に深刻な影響を与えた紫衣事件(一六二七〜三二年)は、中世以降、朝廷の特権(勅許)であった紫衣の授与を幕府が力(法度)で規制したもので、まさに「紫」の中核(御所)の特権を犯す大事件であったわけです。ただ、四神や日月の色彩に比べ、紫色が僧衣など以外ではあまり目立たないのは不思議なことです。

ところで、仏像の研究では、紀元前五世紀頃、ブッダが悟りを開いてしばらくは仏像がなく、紀元後にブッダの生涯を描いた仏伝図が作られた後に、ようやく現れることが知られています。しかも初期の仏伝図には、主人公のブッダは菩提樹や玉座・梯子(上方から降りてくる?らしいのですが...)で表現されるだけで、姿は描かれませんが初期のキリスト教でもイエスはクルス等で表わされ、日本の埴輪でも人物埴輪出現以前の五世紀には椅子形埴輪が古墳の墳頂に樹立されています。いずれも最初は主人公が象徴的表現で示されるといふ興味深い共通点があります。いわば透明性の表現とも云え、主役の色は観念的にか表現できません。古代以来、日本文化に深く浸透した古代中国の宇宙観における主役の色が一貫して「控えめ」であった理由も、このあたりに隠されているといえそうです。



御殿飾り籠
天保15年(弘化元年1844)頃
横山経治氏寄贈・京都国立博物館

各種の京人形も登場します。本年は特に、近年受贈した入江波光コレクシヨンの中から、からくり人形をまとめて紹介します。みやこで育まれた人形文化の諸相をお楽しみください。

(山川 嘯)

第五回国際博物館会議(ICO M) 大会は京都で開催!

国際博物館会議 京都大会
ICO M
KYOTO 2019
1-7 September

三年に一回、世界中の博物館関係者三千人以上が一堂に会する国際博物館会議(ICO M)の第二五回大会が、平成三十一年(二〇一九)九月一〜七日に京都で開催されます。博物館を核とした関西全体の盛り上がり期待されています。今後の動きにぜひ注目ください。

表紙(左上より): 雪中三獣図襖(部分) 森狙仙筆 京都・廣誠院 / 葡萄松風図(部分) 齊白石筆 北京画院 / 素三彩果文盤(部分) 大清康熙年製銘 京都国立博物館 / 粉彩松鹿図瓶 大清乾隆年製銘 京都国立博物館 / 平等院雪景図屏風(部分) 塩川文麟筆 京都国立博物館 / 靈元天皇即位・後西天皇讓位図屏風(左隻・部分) 狩野永納筆

無料観覧日のお知らせ

天皇陛下御在位30年を慶祝して、平成31年2月24日(日)は無料観覧日といたします。

国際特別講演会

文化庁「平成30年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」による当館の国際交流事業の一環として、韓国を代表する仏教美術研究者の一人である姜友邦氏をお招きし、日韓の仏教美術に関する研究成果の一端をご紹介します。

日時：平成31年1月26日(土) 13時～17時

プログラム(予定)：

◆第一部 講演「日本と韓国の仏画の新解釈—国宝「子島曼荼羅」と重要文化財 鏡神社所蔵「高麗水月観音図」を中心に—」 *逐次通訳あり

姜友邦氏(一郷韓国美術史研究院院長/梨花女子大学人文科学大学美術史学招へい教授)

◆第二部 日本人研究者との座談会

登壇者：姜友邦氏、松本伸之氏(奈良国立博物館長)、谷口耕生氏(奈良国立博物館学芸部教育室長)、大原嘉豊(京都国立博物館学芸部保存修理指導室長)

会場：京都国立博物館 平成知新館 講堂

※当日11時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。
※定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要です)。

土曜講座

1月12日「漢代の画像鏡と画像石—歴史を描く—」

京都国立博物館上席研究員 宮川禎一

1月19日「いのししはめでたいか—いのしし図像学—」*

京都国立博物館研究員 上杉智英

2月2日「美麗を極める中国陶磁」** 京都国立博物館研究員 降志哲男

2月9日「須磨コレクションの中国近代絵画」◇ 京都国立博物館名誉館員 西上実氏

2月16日「天皇の即位図を読む」*** 京都国立博物館研究員 富士雄也

2月23日「木匠から巨匠へ：齊白石の人生と芸術」◇ 北京画院理論研究部主任 呂曉氏

3月2日「雛御殿—雛人形の暮らす館—」**** 京都国立博物館工芸室長 山川 暁

3月9日「齊白石の絵画における現代性」◇ 京都国立博物館主任研究員 吳孟晋

◆…新春特集展示「亥づくし」関連講座 **…特集展示「美麗を極める中国陶磁」関連講座
◇…特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」関連講座

◆◆…特集展示「初公開！天皇の即位図」関連講座 ◆◆◆…特集展示「雛まつりと人形」関連講座
※平成知新館 講堂にて開催(13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要))。
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

イベント

《いけばなパフォーマンス》

日時：平成31年1月6日(日) 13時～、14時～の2回公演 *各回約30分

場所：明治古都館 中央ホール

出演：華道家元池坊 IKENOBOYS 柿沢正一、田中伸明

※各回定員200名、参加無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※当日11時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

《芸舞妓 春の舞》

日時：平成31年1月14日(月・祝) 13時～、14時～の2回公演 *各回約30分

場所：平成知新館 講堂

※各回定員200名、参加無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※当日11時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

《京都・らくご博物館【冬】～立春寄席～ vol. 51》

日時：平成31年2月8日(金) 18時30分開演(18時開場)

会場：平成知新館 講堂

出演：桂優々 桂ひろば 桂ざこば <中入> 桂米紫 桂千朝

入場料：3100円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2500円)

※全席指定、平成知新館名品ギャラリー観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

申し込み先：お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付)

*祝日は除く) WEB / <https://www.kyohaku.go.jp/> らくご博物館【冬】申し込み画面

これからの展覧会

◆特別展 時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝

平成31年4月13日(土)～6月9日(日)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」

平成31年1月16日(水)～2月24日(日)

【奈良国立博物館】

特別陳列「おん祭と春日信仰の美術—特集 大宿所—」

平成30年12月11日(火)～平成31年1月20日(日)

特別陳列「お水取り」「覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」

平成31年2月8日(金)～3月14日(木)

【九州国立博物館】

特別展「京都・醍醐寺 真言密教の宇宙」

平成31年1月29日(火)～3月24日(日)

◆名品ギャラリーの休止および部分開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止、または部分開館しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：3月19日(火)～6月(予定)

名品ギャラリー部分開館：3月12日(火)～3月17日(日)

*2F、1F・1・2(3F、1F・3～6は閉室)

庭園のみ開館期間：3月19日(火)～4月11日(木)

ご利用案内

【開館時間】<12月18日～2019年3月17日>

9:30～17:00 *金・土曜日は20:00まで開館

<3月19日～4月11日>

9:30～17:00 *入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】<12月18日～2019年3月17日>

一般520円(410円)、大学生260円(210円)

*()内は団体20名以上

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<3月19日～4月11日>

一般260円(210円)(庭園ガイド冊子付き)

*()内は団体20名以上

*大学生以下、満70歳以上、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、1月29日、4月12日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2019年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社
ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

